

第2学年1組 社会科学学習指導案

指導者 佐藤 忠久仁

テーマ 歴史的事象を多面的・多角的に考察する能力を育てる社会科学学習指導の在り方

1 単元 明治維新

2 目標

- 近代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、近代の特色をとらえようとしている。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 新政府の改革や自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果、時代の転換の様子をとらえ、自分の言葉で表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- 新政府の改革や自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などについて、有用な情報を適切に選択して、読み取りたり図表などにまとめたりすることができる。
(資料活用の技能)
- 明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解し、その知識を身に付けることができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本単元は、学習指導要領の歴史的分野・内容(5)「近代の日本と世界」のイ及びウを受けて設定した。ここでは、「新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。」ことをねらいとしている。また、新政府による改革の特色については、近世の政治や社会との違いに着目しながら考察し、近世から近代への転換の様子を、自分の言葉で表現できることが必要である。

生徒の意識・実態調査(平成23. 10. 7実施 牛久市立牛久南中学校2年1組39人)

調 査 内 容	結 果
1 話し合い活動で友達の話聞いて自分の考えに生かすことができますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・できる(9人) ・どちらかといえばできる(15人) ・どちらかといえばできない(15人) ・できない(0人) ・なっている(4人) ・どちらかといえばなっている(18人)
2 話し合い活動が自分の考えを広げる学習になっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらかといえばなっていない(15人) ・なっていない(2人) ・とてもある(2人) ・まあまあある(7人)
3 明治時代の歴史について興味がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりない(22人) ・まったくない(8人)
4 時代が変わって江戸から明治にどんな変化があったか教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が挙げた事象の数 ・0個(5人) ・1個(7人) ・2～5個(22人) ・6～10個(5人) ○生徒が挙げた面の数(複数回答) ・政治面の変化を挙げた(20人) ・社会と文化面の変化を挙げた(19人) ・産業の変化を挙げた(4人) ・外交の変化を挙げた(7人) ○時代の転換の様子をとらえ、記述できた生徒の数(5人)

これまでの社会科の授業では、友達と協力して問題を解決するグループによる話し合い活動を積極的に行ってきた。その結果、話し合い活動についての意識調査では、「話し合い活動で友達の話聞いて、自分の考えに生かすことができる」が24人で、学級の半数以上の生徒が、話し合い活動の有効性を感じ取っている。しかし、江戸から明治への時代の変化を答える実態調査では、変化として挙げた事象の数が6個～10個の生徒が5人で、事象を6個以上挙げて答える生徒が少なかった。事象のみを感覚的に挙げる生徒が多く、事象と事象を比較し、関連付けて記述できた生徒が少なかった。また、生徒が挙げた面は、産業面と外交面が少なく、政治面や社会・文化面でとらえている生徒が多く、時代の特色を少ない面でもとらえている生徒が多いことが分かった。これまでの話し合い活動では、歴史的事象の意味や意義、及び事象間の関連を多面的・多角的に考察する能力が十分に育っていなかったと考えられる。

そこで、本単元においては、立場を明確にしたグループによる話し合い活動の工夫を通して、歴史的事象を多面的・多角的に考察する能力を育てる学習の実践を行いたい。立場を明確にしたグループによる話し合い活動の工夫については、政治家、元武士、庶民などの立場をグループ内で分担して当時の人物の立場で意見交換を行う。このことにより、明治維新期の諸改革の意味や意義について多角的に考察させる。全体の話し合い活動では、歴史的事象の特色を前時代との比較や事象間の関連から総合的にとらえ直すことにより、時代の転換の様子をつかむことができるようにしていきたい。

4 単元の指導と評価の計画（9時間扱い）

計画	分野 (面)	立場 (角)	学習活動及び内容 学習課題	評価規準【観点：関・考・技・知】(評価方法) 授業のねらい
1		単元の導入	○単元の学習を概観し、単元を通しての学習課題を設定する。 1 伊藤博文、板垣退助、西郷隆盛、大久保利通のいずれかを選択して、その人物が果たした歴史的役割や人物像について調べ、略年表にまとめる。 明治維新期の大きな社会の変化を捉えよう。	明治維新时期を代表する4人の略年表の作成により、明治の大きな歴史の流れを捉え、本単元の学習に興味をもつ。 ・人物の略年表づくりに意欲的に取り組み、明治の学習に関心をもとうとしている。 【関心・意欲・態度】(活動、ワークシート)
2	政治・社会	政府・庶民	○明治新政府の成立 新政府の方針や諸改革の内容を調べ新政府の政策について自分の考えを書こう。 1 新政府の方針や諸改革の内容を調べる。 2 諸改革の意味について、政府と庶民の立場に立って考え、自分の考えを書く。	新政府の方針や諸改革が、中央集権国家の体制の確立につながったことを捉える。 ・主な改革に関連する資料からその意味と問題点を考えている。 【思考・判断・表現】(活動、ワークシート)
3	政治・社会	政府・庶民	維新の三大改革の内容について調べ新政府による改革の特色について自分の考えを書こう。 ○維新の三大改革 1 諸改革の具体的な内容を調べる。 2 維新の三大改革について、政府と庶民の立場に立って考え、特色について自分の考えを書く。	新政府が行った富国強兵政策などの諸改革が、人々へもたらした影響について捉える。 ・新政府が富国強兵のために行った諸改革の具体的な内容を理解している。 【知識・理解】(ワークシート)
4	経済・文化・外交	政府・庶民・外国	○文明国をめざして 殖産興業と文明開化について調べ、政府の政策について自分の考えを書こう。 1 産業や文化の面で、新政府が目指した近代化政策の具体的な内容を捉える。 2 政府の政策の目的について、政府と庶民、外国の立場に立って考え、政策について自分の考えを書く。	殖産興業や文明開化など欧米文化の流入によって、人々の考え方や生活が大きく変化したことを捉える。 ・文明開化に関わる、人々の生活の変化について気付き、考えている。 【思考・判断・表現】(活動、ワークシート)
5	政治・外交	政府・庶民・外国	○近代的な国際関係 新政府が行った外交政策は、どのようなものだったのか調べ、自分の考えを書こう。 1 新政府が、行った外交の具体的な内容について資料を基にまとめる。 2 新政府の外交政策の目的について、政府と庶民、外国の立場に立って考え、自分の考えを書く。	近代国家建設のために、新政府が、欧米諸国やアジア、諸国に対して行った外交政策の目的について捉える。 ・政府の外交政策の内容について、資料を基にまとめている。 【技能】(ワークシート)
6・7 (本時)	政治・社会	政府・庶民・士族	○民権運動の高まり 西南戦争と自由民権運動を調べ、この二つのできごとのつながりと、その時代の社会に与えた影響について考えてみよう。 1 西南戦争と自由民権運動について立場を選択して、調べる。 2 グループによる話し合い活動で、二つのできごとの意味を見だし、記述する。 3 二つのできごとのつながりから、その時代の社会に与えた影響を考える。	西南戦争と自由民権運動が、その時代の社会に与えた影響を時代の移り変わりとして捉える。 ・新政府の専制政治への不満から民権運動が始まったことや、改革への不満から士族の反乱が起きたことを捉え、時代の移り変わりを説明している。 【思考・判断・表現】(活動、ワークシート)
8	政治・社会	政府・庶民・外国	○立憲国家の成立 憲法制定に向けての準備や憲法の特色はどんなものだったのか調べ、自分の考えを書こう 1 憲法制定に向けての準備と憲法の内容について調べ憲法の特色を理解し、まとめる。 2 立憲国家が成立した意味を政府と庶民、外国の立場に立って考える。	政党の結成や憲法制定の過程から、議会政治が始まり、立憲国家が成立したことを捉える。 ・憲法に基づいて議会政治が始まり、立憲国家が成立した意味について考えている。 【思考・判断・表現】(活動、ワークシート)
9		総合してまとめる	○単元のまとめ 明治維新期の大きな社会の変化に着目し、近世から近代への時代の転換点について説明する。 1 単元の既習事項を分野ごとに分類し、時代の転換点はどこか、グループで話し合う。 2 なぜそこを転換点として選んだのか理由を記述する。	近世から近代への時代の転換点を選び、説明することで、明治時代が、政治・生活・文化などあらゆる面で西洋化や近代化が進み、急激に社会が変化していったことを捉える。 ・学習したことをもとに、時代の転換点を選び、説明している。 【思考・判断・表現】(活動、ワークシート)

5 本時の指導

- (1) ねらい
西南戦争と自由民権運動がその時代の社会に与えた影響を、時代の移り変わりとして捉える。
- (2) 展開

学習活動・内容	形態	指導上の留意点と評価 (◎表現の共有・○B→Aへの手立て・◇C→Bへの手立て)
<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <p>西南戦争と自由民権運動を調べ、この二つのできごとのつながりと、その時代の社会に与えた影響についてまとめてみよう。</p> <p>2 西南戦争について、グループ内にて二つの立場に分かれて調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p><生徒の立場> 立場① 西郷軍 (西郷隆盛) 立場② 政府軍 (大久保利通) (1) 西南戦争について、資料を基に調べる。 (2) 西南戦争は、どんな意味をもった戦いであったか、それぞれの立場で考える。</p> <p>3 自由民権運動について、グループごとに二つの立場に分かれて調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p><生徒の立場> 立場③ 民権派 (板垣退助) 立場④ 政治家 (伊藤博文) (1) 自由民権運動について、民撰議員設立の建白書などの資料を基に調べる。 (2) 自由民権運動は、どんな意味をもった運動であったか、それぞれの立場で考える。</p> <p>4 西南戦争と自由民権運動のつながりから、その時代の社会に与えた影響について考え、話し合う。</p> <p>(1) どのように関連するのか、関連からどんなことが言えるのかを話し合う。 <予想される生徒の反応> ・反政府運動が、武力から言論に移り変わった。 ・西南戦争後、専制政治への言論での批判が高まるようになった。</p> <p>(2) 西南戦争と自由民権運動のつながりから、その時代の社会に与えた影響について考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>5 西南戦争と自由民権運動の二つの歴史的事象の関連から、時代の移り変わりを捉える。</p> <p>(1) 時代の移り変わりについて学級全体で意見を交換する。 (2) 時代の移り変わりをワークシートに記述する。</p> <p>6 本時のまとめをし、次時の学習の見通しをもつ。</p> <p>西南戦争以後、自由民権運動が全国的に広がるなど、憲法制定や議会政治の実現に向けて、武力から言論へと時代が移り変わった。</p>	<p>個人</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>全体</p> <p>個人</p> <p>全体</p> <p>個人</p> <p>個人</p>	<p>・西南戦争を題材とした映画の予告編を見せ、学習への動機付けとする。</p> <p>・西南戦争が九州で行われ、薩摩藩の武士が中心であったことを押さえるために、西南戦争が起きた場所を地図帳や掛け地図で確認する。</p> <p>・立場を明確にして考察できるようにするために事前に教師が立場を設定しておく。</p> <p>・西郷軍を調べている人は西郷隆盛の立場で、政府軍を調べている人は政府の中心にいた大久保利通の立場で西南戦争の歴史上の意味を考えるように指示する。</p> <p>○友達の見解の中から新しい発見や疑問となる言葉があればワークシートにメモするように指示する。</p> <p>◇活動が進まない生徒には、西南戦争と同様に自分が選択した立場から考えるように助言する。</p> <p>・自由民権運動が全国的な広がりを見せたことを捉えさせるために、運動の広がりや示した地図を黒板に掲示する。</p> <p>◇話し合いが進まないグループには、「西南戦争が終わって、その後の社会はどう変わったのか。」という視点で見られるように助言する。</p> <p>◎生徒から出た意見をつないで、西南戦争と自由民権運動がどのように関連するのかと関連からどんなことが言えるのかについて学級全体で練り上げ、共有させていきたい。</p> <p>◇記述が進まない生徒には、二つの出来事の共通点として政府への不満、違う点として反政府運動の方法があったことに気付くように助言する。</p> <p>・「侍の時代が終わった」という補助発問を用意して、つながりに気付かない生徒が多いときには、全体に提示して、話し合いを活発にさせる。</p> <p>◎二つの事象をつなげるという視点で、生徒から出た意見を生かして、学級全体で時代の移り変わりを捉えさせていきたい。</p> <p>評価 西南戦争以後、反政府運動が武力から言論に変わったことなどを時代の移り変わりとして捉え、自分の言葉で説明している。 【思考・判断・表現】(活動、ワークシート)</p>

※太字は、立場を明確にした話し合い活動で、生徒が多面的・多角的に考察している学習活動。

※は、立場を明確にした話し合い活動での、教師の指導上の留意点。